

産業とコミュニティの苗床

一 地域に根差す公民館のあり方の再考 一



DZ19640 平山 夏暉

Keywords

社会教育 地域コミュニティ 地域活性化
伝統産業 コミュニティデザイン 伝統継承

1. はじめに

公民館の目的は「实际生活に即する教育、学術及び文化に関する各種事業を行い、持って住民の教養の向上、健康の促進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与すること」である(社会教育法第二十条)。昨今では、従来の機能に加え、利用者のニーズに沿えるよう、様々な機能の複合化が多く見られる。

公民館では、教育機能に加え、利用者が交流できるようなコミュニティ形成の場にもなり得る。公民館が持つ機能の地域活性化に寄与するポテンシャルは高い。しかし、現在の施設はそれを生かしきれていないように感じる。本研究では、公民館の今後のあり方について再考し、提案したいと考える。

2. 研究背景

2.1 公民館の認知度と利用率

平成22年に行われた調査では、全地域、年代別を通して、「1年以上使用したことがない」が一番多く、最少の農山漁村部の60歳以上で半数、最も多い大都市部の20～30代では80%近くに及んだ。また、年代別で見ると若い世代で、利用率が低く、また、地域別で見ると大都市部の方が利用率が低いことがわかった。利用者の偏りをなくすこと。また大都市部では、問題がより顕著なため、利用者のニーズを考え直す必要がある。

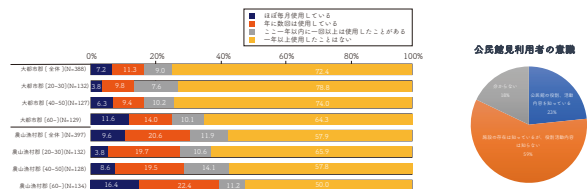


図1 認知度と利用率

2.2 公民館の利用状況

公民館は、図書館と併設される例が多く、施設を訪れる人の多くが図書館利用者や、行われるイベントの参加者など決まった目的で習慣的に利用する人である。しかし、コミュニティ形成の場として、目的がなく、初めて訪れる人でも立ち寄り、滞在しやすい雰囲気作りが必要

だと感じる。社会教育施設の利用者アンケートでも、全ての施設で「気軽に立ち寄れる雰囲気を作ってほしい」との声が最も多かった。²⁾

2.3 実習室の利活用

公民館には、基本機能として会議室や研修室などの他、調理室や工芸室などの実習室がある。こういった機能は、地域産業の講習や実演などに使用でき、地域産業の振興に寄与する事が出来るのではないかと。また、これらの諸室が、閉じた空間で、人の目に付きにくい配置になっている例が多い。こういったことが、施設用途の不明瞭さ、認知度の低さに繋がっている。



図2 実習室の例

3 研究目的

地域住民のための、教育・学習、コミュニティの形成などのため設置されているが、認知度や、利用率の偏りなど種々の問題を抱える公民館において、空間構成や諸室の活用、イベントプログラムなどの視点から、今後のあり方を提案したいと考える。

4 敷地

4.1 概要

敷地は東京都台東区入谷、旧坂本小学校跡地において計画する。旧坂本小学校は、関東大震災後に建てられた復興小学校で、平成8年(1996)の閉校後も建物は残存し、地域の祭事ごとの事務所としての活用や、校庭の地元少年サッカークラブの使用など、学校としての機能を終えた後も地域コミュニティの拠点として地域の人に愛されてきた。



図3敷地図の例

4.2課題

計画敷地では、小学校の解体後の、地域コミュニティの喪失が課題である。敷地周辺では、関東大震災を免れた建物が集中し、該当建物の、高層マンションや駐車場などへの活用で、より一層の地域コミュニティの希薄化が懸念される。また、計画敷地を有する台東区は、江戸時代から伝統工芸品の職人が集まり、現在に至るまでその技術を引き継ぎ活躍を続けている。しかし、伝統工芸産業は需要の減少、また、それによる職人の負担の増加、高齢化などで、職人が減少傾向にある。また、技能の取得までに長期間を要すること、職人が弟子を育てる余裕がないことなどが原因で後継者問題も深刻である。

5.設計

5.1設計趣旨

解体された小学校に代わる、地域コミュニティの拠点としての公民館を目指す。地域の不足要素を補いつつ、地域の特色を生かした機能を有した施設とする。

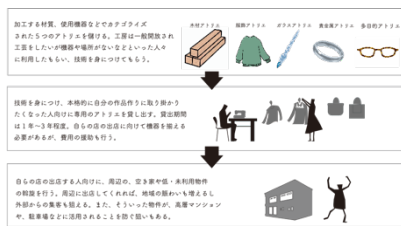


図4 職人育成プログラム

5.2プログラム

主に以下の機能を有する。

- ・みんなのアトリエ(職種別に5つ：木材、貴金属、ガラス、服飾、その他) ※その他は鼈甲、江戸提灯など
- ・職人アトリエ (主に、江戸切子、鼈甲、彫金などの伝統産業のほか、服飾デザイナーや革職人など)
- ・カフェ ・図書エリア ・教室 ・ 体育館
- ・屋外広場 ・集会室 ・会議室

公民館としての基本的機能を有しながら、地域の不足要素である、運動場を設ける。また地域の特色でありなが

ら、課題を抱える伝統工芸産業を支えるため、職人育成のためのアトリエや、機材の貸し出しを行い、また地域の人も工芸体験ができるよう、一般向けの「みんなのアトリエ」を設ける。

5.3設計手法

5.3.1建物配置

中央に屋外広場を設ける事と併せて、広場を囲むように、ギャラリー場の通路を設けている。屋外広場では、演劇やコンサート、スポーツイベント等が開催され、ギャラリー上の通路は観客席となり、ダイナミックな屋外空間となる。地域住民の様々な活動が展開される場であると同時に、テント上の屋根が活動のシンボルとなる。

5.3.2オープンな空間

体育館やアトリエは開口部を広く取るなど、可能な限りオープンな作りとし、利用者に活動内容がわかるよう、またその活動に参加しやすいようにする。

終わりに

本設計では、対象敷地を台東区入谷の旧坂本小学校跡地に設定し、地域コミュニティの拠点になるような公民館を設計した。対象敷地では、今後実際に、コミュニティ拠点施設が建てられる予定である。周辺の老朽化した建物が地域と関連のないマンションや駐車場などにならないう、これからできる施設を中心に、地域のつながりをより強固なものにしていければ周辺の有効活用につながっていくと考える。また日本が誇る伝統工芸産業の歴史が途絶えぬよう、地域の方のみならず全員で盛り上げていければ良いと感じた。

参考文献

- 1)平成22年度社会教育施設の利用者アンケート等による効果的社旗教育施設形成に関する調査研究
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2019/07/31/1419658_01.pdf
- 2) 2011平成22年「生涯学習政策に関する研究」
<https://www.city.sosa.lg.jp/page/page001136.html>
- 3) 匝瑳市ホームページ

要約

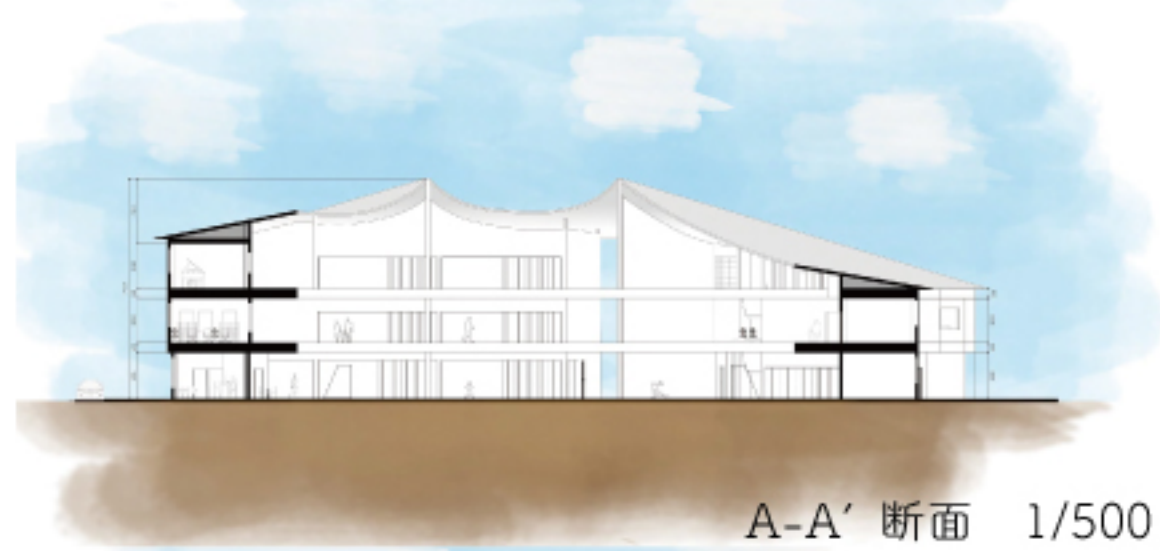
敷地を台東区入谷、旧坂本小学校跡地に設定。地域コミュニティの拠点となる公民館の設計。公民館の地域における役割の大きさや重要性に対して認知度の低さや、利用率の地域、年代による偏りという課題を抱えた公民館が、役割を全う出来ていないと感じ、今後のあり方を考えようと今回の計画に着手した。地域に不足した要素や、地域の強みを生かすよう機能を決定し、また、利用者のアクセスのしやすさを考慮した建物配置とした。



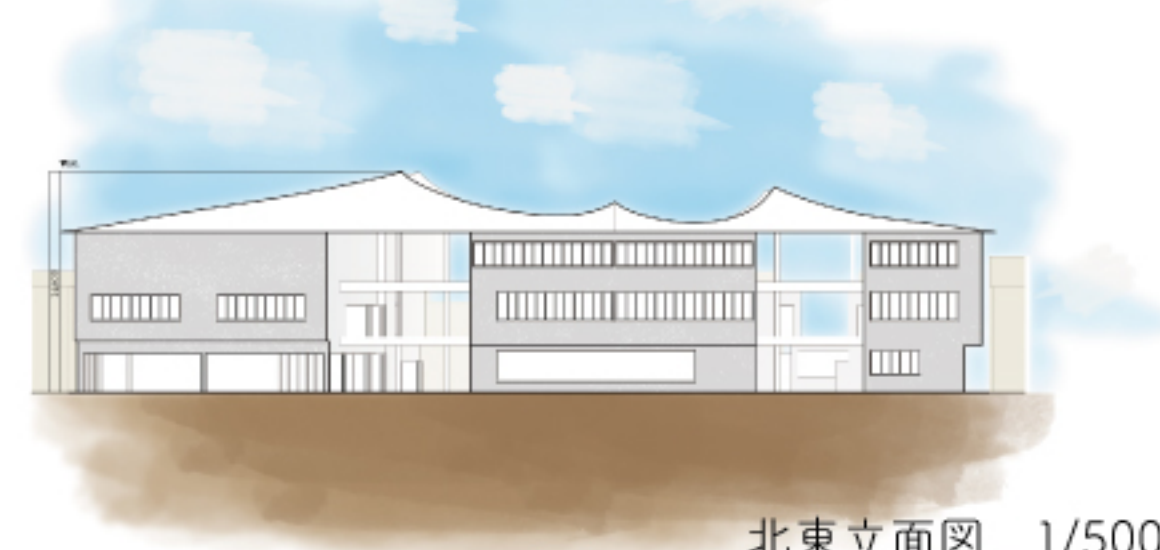
1階配置平面図 1/500



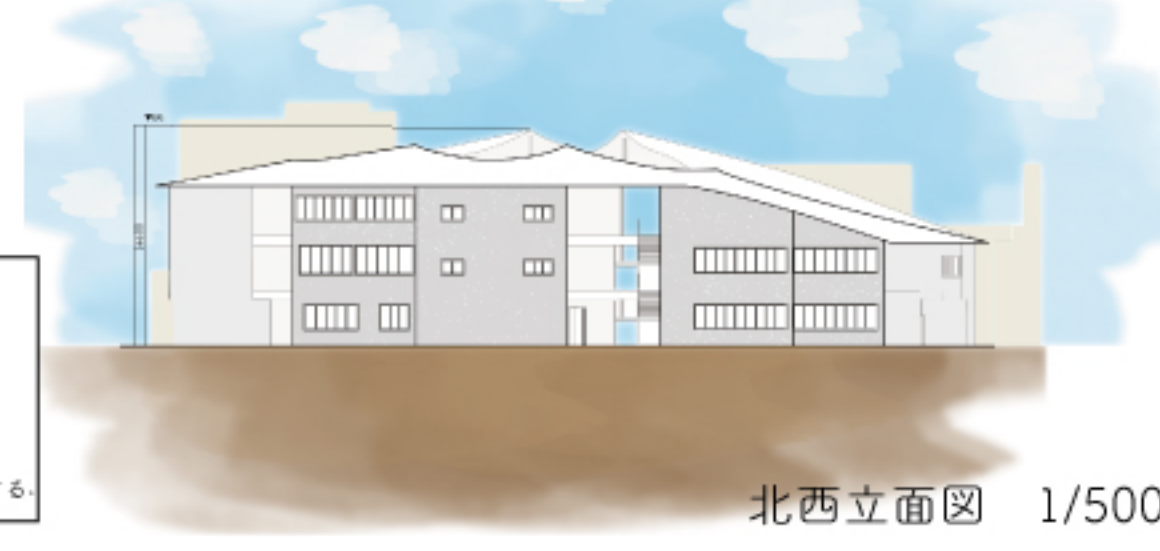
B-B' 断面 1/500



A-A' 断面 1/500



北東立面図 1/500



北西立面図 1/500

